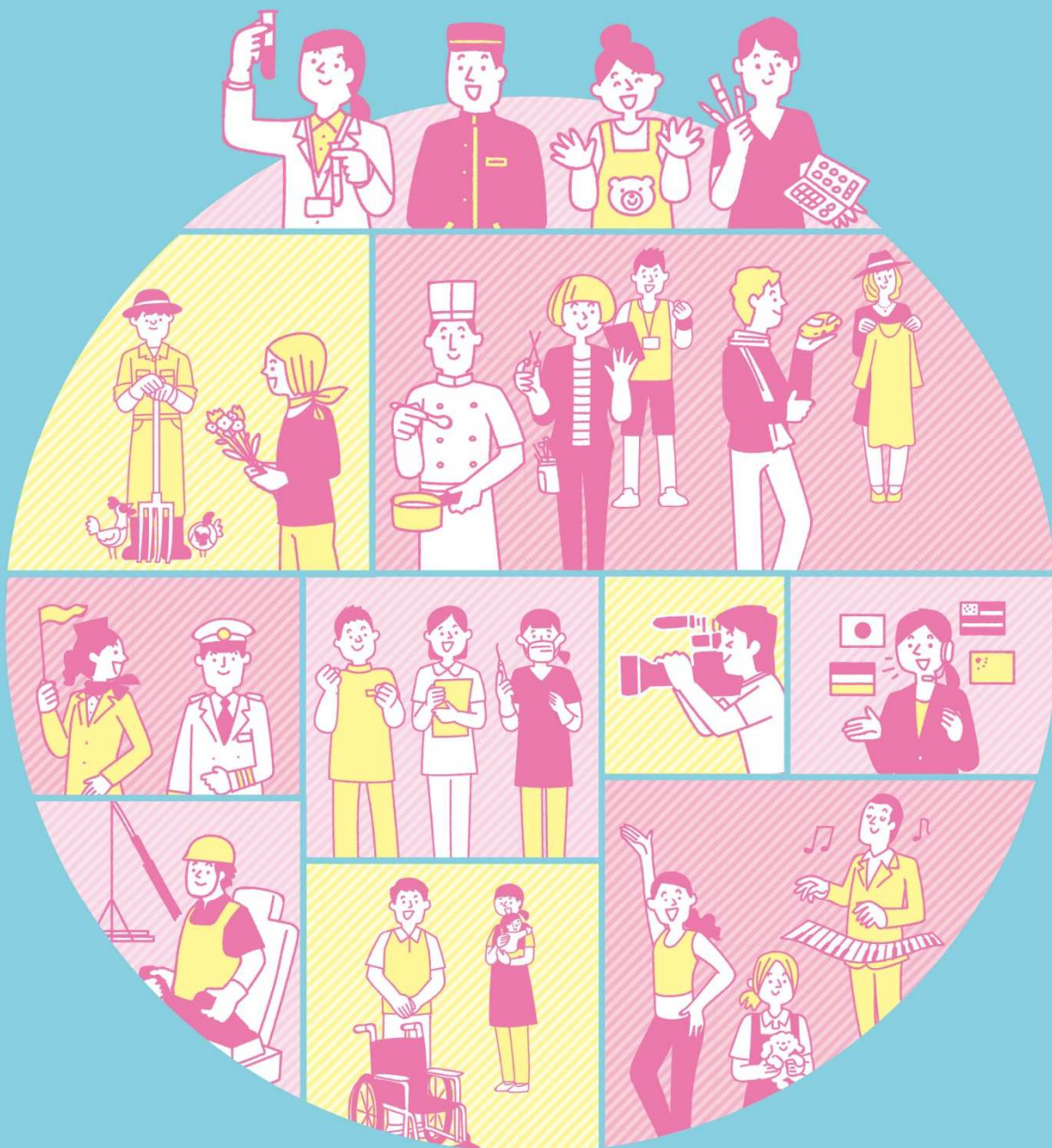


プロフェッショナルを育てる

未来につながる 専門学校

｜ 教員向け使い方ガイド ｜



プロフェッショナルを育てる

未来につながる 専門学校

| 教員向け使い方ガイド |

はじめに

この本は、主に高校生や保護者の方を対象とした「未来につながる専門学校」の教員版として作成されたものです。

突然ですが、あなたは生徒に下の質問をされたとき、どのように答えますか？

「専門学校と大学の違いは何ですか？」

「専門学校では、どのような授業が受けられますか？」

「専門学校を卒業したら、どのような職業に就けますか？」

現在、我が国の教員養成課程は大学や短期大学に設置されているため、専門学校に在学していた経験のある高等学校の先生方はごく僅かです。そのため「自分が在学していた大学・短期大学のことはよく知っているけれども、専門学校のことはよく分からない…」という先生方がほとんどではないでしょうか。

文部科学省で行われた会議では、以下のような指摘もされています。

「高校現場における進路指導においては、『学問の教育より職業技能の教育が一段低く見られ、大学（特に、選抜性の高い大学）に進学すること自体を評価する社会的風潮がある』ともいわれ、まず大学への進学を優先する指導が広がっている※1」

あなたは上の指摘にあるように、専門学校に関する十分な知識なしに、ご自身の生徒に対して大学への進学を勧めたことはないでしょうか。

大学と専門学校には、その役割や教育に明確な違いがあります。そのため、大学への進学が適した生徒、専門学校への進学が適した生徒など、各生徒に適した進路も様々なはずです。

だからこそ、高校生の夢の実現や目標の達成を支援する高等学校の先生方は、ご自身が在籍していた大学や短期大学と同じように専門学校についての知識を持ち、それぞれの生徒に対して適切な助言や支援をしていただきたいのです。

本書は、このような状況を踏まえ、主に高等学校の先生方に、大学や専門学校などの多様な進路を十分に理解していただき、授業内外でそれぞれの生徒に本当に適した進路指導を行っていただくことを目的として作成されました。

生徒の夢や目標を支援するために、本書をお役立てください。

目 次 CONTENTS

● 本誌の使い方	P.003
● 専門学校の基本的説明	P.004
専門学校とは	P.005
専門学校の学びの特徴	P.011
データで見る専門学校	P.016
● 指導例	P.024
「産業社会と人間」： 他者のキャリア理解による進路意識の醸成	P.025
「特別活動」： ケースを用いた学校種や進路の比較検討	P.029
● TIPS	P.033

本誌の使い方

本誌は「プロフェッショナルを育てる 未来につながる専門学校（以下、生徒版）」について、教員のみなさまに向け補足情報をまとめたものです。3章で構成されており、各章で活用方法が異なります。活用場面に応じて、必要な章を参照してください。

1 専門学校の基本的説明



先生方が専門学校について学びたいとき、生徒に専門学校の説明をしたいときに。

囲い部分は本誌に対応する「生徒版」掲載内容です。対応部分を明確にしているため、生徒は「学生版」を、教員は本誌を開いた状態での説明を容易にしています。

2 指導例



専門学校に関する授業を行いたいときに。

「生徒版」を使った授業の例を示しています。学習指導案の形式で、各活動の要素が分かるように示しているので、ある活動要素だけ内容を変更して授業を行う等、各学校の状況に応じた活用が可能です。授業における工夫やワークシート例も示しています。

3 TIPS



「未来につながる専門学校」を授業等の一部に取り入れたいときに。

「指導例」で示しきれなかった、「生徒版」を使った授業や進路指導での活用例を示しています。比較的短時間で取り組める活動も示しているので、既存授業の一部の活動として、取り組むことも可能です。

1

専門学校の基本的説明

本章では「未来につながる専門学校」における、専門学校の基本的説明部分に関する補足説明を記載しています。生徒に説明する際、本章を参照しながら説明すると、詳しい説明を行うことができます。

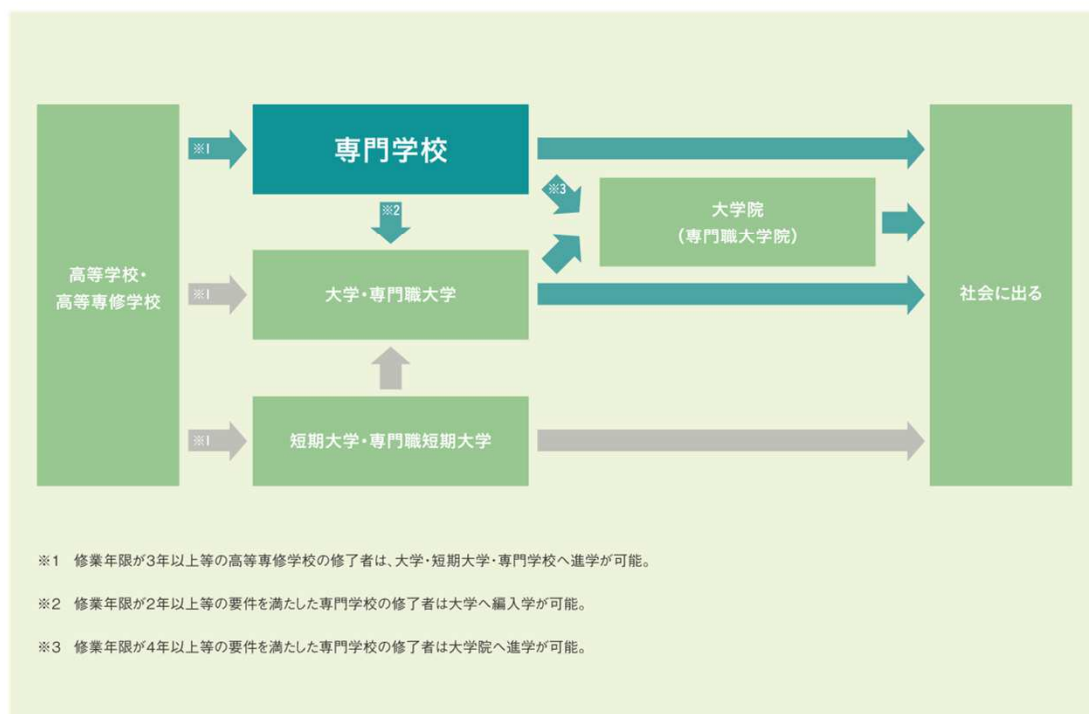
01. 専門学校とは

専門学校とは

📖 「未来につながる専門学校（生徒版）」の掲載情報

📖 全国で 59 万人が学んでいる高等教育機関です。

- ・ 専門学校は、全国に約2,800校存在し、約59万人の生徒が学んでいます（平成30年度）。
- ・ 専門学校は大学と同じ「高等教育機関」として位置付けられています。
- ・ 修業年限は2年である学科が最も多くなっていますが、教育内容に応じて1年制から4年制までさまざまな学科が存在します。
- ・ 一定の要件を満たせば、専門学校卒業後、大学・専門職大学に編入することも可能です。



- ・ 専門学校は、正確には「専門課程を有している専修学校」を指します。
- ・ 「専修学校」とは、学校教育法では「職業若しくは實際生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図る」ことを目的とする学校であるとされており、職業教育や、専門的な技術教育を行う機能を担う教育機関です。

1. 「専修学校」とは

- ・ 専修学校には、専門課程、高等課程、一般課程を置くことができ、このうち、専門課程を置いている学校が「専門学校」と呼ばれます。
- ・ また、高等課程を置いている学校は「高等専修学校」と呼ばれます。「高等専修学校」については、別途文部科学省が作成した「未来をひらく高等専修学校」をご覧ください。

課程名	入学資格	学校の名称例
専門課程	高等学校卒業者	〇〇専門学校 〇〇専修学校 専門課程
	3年制の高等専修学校卒業者	
高等課程	中学校卒業者	〇〇高等専修学校 〇〇専修学校 高等課程
一般課程	学歴・年齢問わず	〇〇専修学校

2. 修業年限

専門課程における、修業別の学科数、生徒在籍数は下表のとおりです（平成30年度）※1

修業年限	1年～1年11か月	2年～2年11か月	3年～3年11か月	4年以上
学科数	1,484	4,824	2,152	535
生徒数	29,531 ※2	307,990	202,192	48,602

- ・ 修業年限は、**各分野で特定の修業年限が定められているわけではなく、同一分野でも様々な修業年限が用意**されています。学校によっては、同一分野で複数の修業年限の学科が設けられていることもあります。
- ・ 例えば、同じ自動車整備の学科でも、2級整備士を目指す学科の修業年限は2年、1級整備士を目指す学科の修業年限は4年など、取得する資格などによって修業年限が異なります。
- ・ 教育内容の高度化により、長期の課程が増えています。

以下の要件を満たした課程で、文部科学大臣が認めた専門学校の修了者に対しては、「専門士」または「高度専門士」の称号が付与され、この要件を満たす課程は大学への編入学または大学院への入学資格が認められる要件も同時に満たします。

称号	修業年限	総授業時数	課程修了の認定	編入学資格
専門士	2年以上	1,700時間 (62単位) 以上	試験等により 成績評価を行 い、その評価 に基づいて課 程修了の認定 を行っている	大学への 編入学資格
高度専門士	4年以上	3,400時間 (124単位) 以上		大学院への 入学資格

※1 平成30年度学校基本調査

※2 「1年」のデータと「1年1ヶ月～1年11ヶ月」のデータを合算して算出

3. 専門学校卒業後の進路

進路系統図にもある通り、**修業年限が4年以上等の要件を満たした専門学校の修了者は大学院への進学が可能**となります。

専門学校から大学に編入学するためには、下記の要件を満たしている必要があります。

専門学校から大学に編入学できる要件 ※

1. **修業年限が2年以上で、総授業時数が1,700時間以上**の要件を満たす課程を修了すること
2. **大学入学資格**があること（高等学校卒業や高卒認定試験合格者など）

専門学校に入学し、卒業後に大学に編入学するケースとして、例えば下記のようなケースが考えられます。

専門学校卒業後に大学に編入学する例 | レストランのオーナーシェフになりたい場合

オーナーシェフには調理の技術のほか、経営に関する知識も必要になりますが、高校卒業後に調理系学科のある専門学校（2年制課程）に入学して調理に関する知識・スキルを修得し、専門学校卒業後は大学の経営学部¹に編入学し、経営の知識を習得すると、オーナーシェフに必要な調理・経営の双方の知識・スキルを4年間で身に付けることができます。

実践的な職業教育により、プロフェッショナルを育てる環境が整っています。



- ・ 大学教育と比較した場合の専門学校の教育の特徴は、実践的な職業教育が行われている点です。各専門学校では、社会・産業のニーズの変化に速やかに対応し、多様な教育を展開しています。
- ・ 学習内容の特徴として、各分野の理論に加えて、企業等と連携した授業や実習・演習など、**実践力を身に付けるための学びが充実**していることが挙げられます。
- ・ また、**専門学校卒業後の就職先も各専門分野に直結**していることが多く、プロフェッショナルを育てるための教育・支援の体制が整っています。

- ・ 専門学校のカリキュラムは、生徒向け冊子の P.26～33 に事例を掲載しています。
- ・ 専門学校で行われている実習は、**企業と連携した実習が多い**ため、社会・産業のニーズを取り入れやすくなっています。特に、**職業実践専門課程は、実習以外の場面でも企業との連携を図っているため、職業実践専門課程でない学科よりも、社会・産業のニーズの変化に柔軟に対応**できる環境が整っています（後述）。
- ・ 専門学校卒業後に、専門分野と関連した仕事に就職した卒業生の割合は、全体で約76%と非常に高くなっています（詳しいデータは、生徒向け冊子の P.67 に掲載しています）。

多様な分野の学科が存在し、分野によっては資格取得も可能です。



- ・ 専門学校には下の表のようなさまざまな分野の学科が存在し、各分野の関連資格の取得が可能な学科も数多く存在します。

分野名	主な学科
工業分野	情報処理、土木・建築、電気・電子、自動車整備、ゲーム・CG など
農業分野	農業、園芸、畜産、バイオテクノロジー、ガーデンビジネス、フラワービジネス、動物管理 など
医療分野	看護、歯科衛生、歯科技工、臨床検査、診療放射線、柔道整復、理学・作業療法 など
衛生分野	調理、栄養、理容・美容、製菓・製パン、メイク、エステティック など
教育・社会福祉分野	保育、幼児教育、社会福祉、介護福祉、医療福祉 など
商業実務分野	経理・簿記、秘書、経営、情報、観光・ホテル、医療事務 など
服飾・家政分野	和洋裁、服飾、ファッションデザイン、ファッションビジネス など
文化・教養分野	音楽、美術、グラフィックデザイン、外国語、演劇・映画、通訳・翻訳、動物、法律行政、スポーツ など

学校基本調査では、各分野に対し下記のような学科区分が存在します。

分野名	学科
工業関係	測量、土木・建築、電気・電子、無線・通信、自動車整備、機械、電子計算機、情報処理、その他
農業関係	農業、園芸、その他
医療関係	看護、准看護、歯科衛生、歯科技工、臨床検査、診療放射線、はり・きゅう・あん摩、柔道整復、理学・作業療法、その他
衛生関係	栄養、調理、理容、美容、製菓・製パン、その他
教育・社会福祉関係	保育士養成、教員養成、介護福祉、社会福祉、その他
商業実務関係	商業、経理・簿記、タイピスト、秘書、経営、旅行、情報、ビジネス、その他
服飾・家政関係	家政、家庭、和洋裁、料理、編物・手芸、ファッションビジネス、その他
文化・教養関係	音楽、美術、デザイン、茶華道、外国語、演劇・映画、写真、通訳・ガイド、受験・補習、動物、法律行政、スポーツ、その他

他の学校種との違い



専門学校は、実践を重視したカリキュラムにより、短い期間で職業に必要な能力を修得することができる学校種で、就職後には即戦力として活躍することが期待できます。

学校種	特徴	修業年限
専門学校	- 特定の職業に必要な能力を、実践を重視したカリキュラムで学習することができます。 - 一般的に、企業などのニーズに応じた教育が行われるため、就職後に即戦力として活躍することが期待できます。	1年以上 (2年が多い)
大学	幅広い分野の知識・教養を身に付けられると同時に、特定分野の学芸を深く学習・研究することができます。	4年※
短期大学	- 短期大学は、大学よりも期間が短いことが特徴です。 - 専門学校に比べ、理論が重視されることや、教養科目が多いことが特徴です。	2～3年
専門職大学	専門性が求められる職業を担うために必要な知識・理論、実践的スキルの両方を学習することができます。	4年
専門職短期大学	専門学校が実践を重視しているのに対し、理論・実践の両方を重視していることが特徴です。	2～3年

※一部の課程は6年。

以下に、専門学校と大学の一般的な違いを示します（分野により、状況が異なることもあります）。

	専門学校	大学
学修内容	- 特定の職業分野の知識・スキル - 企業と連携しているケースが多いため、企業の最新ニーズを踏まえた学修内容となっていることが多い。	- 特定の学問・芸術の理論や教養 - 研究者が授業を行っているケースが多いため、最新の研究を踏まえた学修内容となっていることが多い。
学修方法	- 主に座学と実習を通して学習 - 実習は学校での実習のほか、企業での実習を行っている学校も多い。	主に座学と研究を通して学習
修業年限	- 修業年限は1～4年と様々である。 2年制課程の学科が最も多い。 - 選択する学校によっては、大学よりも社会に出るまでの期間を短くすることができる。	- 基本的には4年が多い。 - 医学部、歯学部、獣医学部、薬学部のうち免許を取得できる課程は6年課程である。
卒業までの学費	- 分野により学費は多様である。 - 最も多い2年制課程の専門学校の場合、大学よりも修業年限が短い分、学費総額が安くなるケースが多い。 「高等教育の修学支援新制度」の対象となる学校もある。	- 国公立／私立、理系／文系により、学費は多様である。 - 多くの学校が「高等教育の修学支援新制度」の対象となっている。

「職業実践専門課程」とは



- ・ 専門学校のうち、企業等と密接に連携して、最新の実務の知識・技術・技能を身に付けられる実践的な職業教育に取り組む学科を文部科学大臣が「職業実践専門課程」として認定しています。
- ・ 職業実践専門課程は、全専門学校の35.4%にあたる994校、修業年限2年以上の全学科の39.8%にあたる2,986学科が認定されています※。

※平成30年度の実績

職業実践専門課程の特徴

企業等が参画する「教育課程編成委員会」を設置してカリキュラムを構築	企業等と連携して、演習・実習等の授業を実施	企業等と連携して、最新の実務や指導力を修得するための教員研修を実施	企業等が参画して学校評価を実施	学校のカリキュラムや教職員等について、ホームページで情報提供
-----------------------------------	-----------------------	-----------------------------------	-----------------	--------------------------------

- ・ 「02 他の学校種との違い」で見たように、専門学校は、企業のニーズを踏まえた教育を行うことが最大の魅力の一つです。
- ・ 企業のニーズを踏まえた教育を行うためには企業との連携が不可欠ですが、職業実践専門課程では、カリキュラムの構築から、実際の授業、教員研修、学校評価に至る様々な場面で企業と連携しています。
- ・ また、職業実践専門課程は、カリキュラムや教職員、就職状況や退学率等に関する様々な情報について、ホームページで公開しています。

すでに職業実践専門課程して認定されている学科の学生の声

企業等と連携した実習・演習等での経験

普段の勉強がどのように現場で使われるかを確認でき、学校では学べない実践的なことが学べました。働いていく場所のイメージが持てたことも収穫のひとつです。(医療分野、3年生)

実際にお客様の前に出て働く事で、責任感が強くなり、自信を持って仕事に取り組まなければならないという自覚が芽生えました。(商業実務分野、2年生)

教員からの熱心な指導・サポート

現場経験のある先生方の実践的な授業・指導が受けられて、すごくためになっています。現場での経験談や失敗した話などを聞くこともあるし、授業も工夫されていて、1つ1つ魅力的です。(教育・社会福祉分野、1年生)

先生や講師の方々の指導力が高いので自分が成長していると感じられます。(文化・教養分野、1年生)

授業後に、親身になって丁寧にわからない所を教えてくれる先生が多いことが、一番の魅力だと思います。(工業分野、1年生)

(出典) 文部科学省「職業実践専門課程 チャレンジ」より抜粋

02. 専門学校の学びの特徴

実践的な実習・演習により、 プロフェッショナルとしての知識・技能が身に付く

- ・多くの学校では企業などと連携した実習・演習が行われています。また、国家資格などの取得を目的とする学校では、資格取得のカリキュラムに応じた長期の実習・演習が組み込まれていることが多いです。各学校においてインターンシップ、現場体験実習やデュアル教育※1といった実習・演習を通じたカリキュラムによって、プロフェッショナルとしての知識・技能を習得することができます。

※1「デュアル教育」とは、学校における学習と、企業・団体等の現場における実践の二つの連携により学生がより実践的な学びを得ることができる仕組みです。
インターンシップとは異なり、教育プログラムとして現場と学校を行き来しつつ、連携して学生を育てます。



例えば、日本児童教育専門学校では、保育士の資格取得において義務付けられている保育実習に加え、学生の保育に対するイメージと実際の保育現場との乖離を防ぐための実習を1年次から実施。仕事内容ややりがいを理解し、資格取得だけでなく、就職までつなげることを目指しています。

専門学校で取得できる国家資格（受験資格含む）には下表のようなものがあります※

分野	取得できる国家資格
工業分野	建築士、建築施工管理技士、自動車整備士、測量士補、電気工事士 など
農業分野	造園技能士、園芸装飾技能士、造園施工管理技士 など
医療分野	看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、言語療法士、作業療法士、歯科衛生士、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師 など
衛生分野	美容師、理容師、調理師、製菓衛生師、栄養士 など
教育・社会福祉分野	保育士、介護福祉士 など
商業実務分野	税理士、公認会計士、中小企業診断士、旅行業務取扱管理者、通関士 など
服飾・家政分野	和裁技能士 など

- ・「職業実践専門課程」に認定されている学科では、「企業等と連携した実習・演習」が義務付けられており、より実践的な教育が受けられます。
- ・なお、デュアル教育とは、学校での座学と企業での実習を組み合わせで行う教育です。専門学校は、従来から座学・実習の両方を重視して教育をしてきましたが、デュアル教育では座学で学習したことと、実習（特に企業での実習）で学習したことが内容上連動した教育が行われています。

※ 実際に取得できるかどうかは、各学校・学科により異なります。各学校・学科の情報により、取得の可否を確認してください。

専門学校卒業生の声

- ・ 付属の病院があって、実習がとて多く、実践でたくさん学ぶことができてよかった（看護師）
- ・ インターンシップで空港の貨物積み降ろしの仕事をして働くことの苦労を経験したが、空港内で働ける貴重な体験ができて、良かった（オペレーター（施設管理・保守点検））
- ・ 卒業制作で一般のカフェのメニュー表を仕事として請け負った。紙の質から自分で選びプレゼンしお客様の意向と添えるものを作るということを学生のうちに経験できたことはデザインの仕事に携わる上で大きい体験だった（グラフィックデザイナー）

コンテストへの参加等を通じ、 企業などから高い評価を得ている

- ・ 専門学校の在校生は、技能検定の受検や外部のコンテスト・展示会への参加を通じて、自らの知識や技能の修得レベルを確認することができます。中には、社会人とともに技能五輪国際大会※2のような国際大会に出場する在校生がいるなど、高い技能を身に付けている人もいます。
- ・ また、学生時代に高度な資格を取得することについて、企業からの高い評価を得ている学校もあります。



「本校では、就職してから取得すると5～7年程度の
経験が必要な資格を在学中に取得させています」

※2 技能五輪国際大会とは、2年に1回開催される国際的な技能競技大会です。
日本代表選手の選考は、技能五輪全国大会において行われ、22歳以下である優勝者（成績優秀者）が日本代表として選出されます。



- ・ 就職にあたっての競争が激しい業界では、在学中にコンテストに入賞することがよりよい就職先へと直結する分野もあり、生徒は技術の向上や作品制作に向けて切磋琢磨しています。デザイン、ファッション、美容、プログラミング、ロボットなど様々な分野において、専門学校生向けのコンテストが開催されています。
- ・ また、技能検定の受検、展示会への出展や卒業制作・発表会を目標として、年間の教育課程を編成している学校もあり、在学中に就職に必要な知識や技能を着実に伸ばすことができます。

専門学校卒業生の声

- ・ 苦手な分野でコンテストに出ることになり、賞を取るために練習し続けた。そのおかげで賞を取ることができ、苦手なことも努力すれば得意に変えることができることを学んだ（美容師）
- ・ ファッションショーの製作で細かい作業が大変だったが、銀賞と評価してもらえて嬉しかった（婦人服企画）

同じ職を目指す仲間と出会う



- ・ 専門学校の同級生は、同じ職業を目指す仲間であり、先生方はその道の先輩でもあります。同じ志向の仲間が身近にすることで、好きなことを仕事にするために学び、よりよい進路を選択するための環境が整っています。



「専門学校で、一生付き合っていける仲間と出会えた」
「専門学校の先生に紹介してもらった方のもとで、
今も働いています」

- ・ また、各学校では研修旅行や成果報告などの行事も工夫され、卒業後も記憶に残る経験となっているようです。



- ・ 専門学校の同級生は、同じ職を目指す仲間であり、競争の厳しい分野ではライバルでもあります。修業年限は大学よりも短いですが、同じ夢や目標を持つ仲間とともに密度の濃い学習を積み重ねるため、同級生との仲間意識は強くなる人が多いようです。

専門学校卒業生の声

- ・ 同じ道を目指す友人たちとお互い頑張りながら学校生活を送れた（システムエンジニア）
- ・ 病院での実習にはとても苦労したが、仲間と一緒に乗り越えられた（看護師）
- ・ 同じ目的をもった仲間たちに出会えて毎日の学校生活が本当に楽しかった（ハンドメイド作家）
- ・ 先生が現役の方だったので、話されることが新鮮で興味深かった（販売）
- ・ 授業で頻繁にコンペ・プレゼンテーションがあったので全員がライバルだった。1番大きなコンペで1位になれなかったのは、人生で一番悔しかった（グラフィックデザイナー）

きめ細かな教育・支援の体制がある

- ・ 専門学校は、生活面、学習面の指導がきめ細かく、高校までと同様に学級制や担任制をとる学校も多いです。



「先生と生徒の距離が近く、相談に乗ってくれた」

- ・ 各学校では、資格の取得や知識・技能の習得に向けて、授業ごとの小テストや放課後の補習などを工夫し、学修成果を担保しています。例えば、東京工科自動車大学校・東京テクニカルカレッジでは、授業ごとに授業シートを生徒に配布し、わかる授業を実現しています。

授業シート

授業カルテ

この科目で学ぶ内容

今日の授業で
学ぶ内容を10項目に細分化

使用する教材
(オリジナルサブテキストなど)

授業に対する
先生からのメッセージ

授業シートの
10項目に沿った内容

その場ですぐに
答え合わせ

解答・解説も配布

(出典)東京工科自動車大学校・東京テクニカルカレッジホームページ

- ・ 専門学校は、学級制や担任制の学校が多いため教員と生徒との距離が近いことが多いです。また、生活面・学習面の指導が充実している学校が多くあります。
- ・ 日々の学習においても小テストや補習が充実しており、高校までの学習が必ずしも得意ではなかった生徒に対して職業教育を行うノウハウを有しています。オープンキャンパスや入学試験で把握した個別の生徒の状況を踏まえて、卒業までに目標を達成できるように、入学後に学習支援する学校もあります。

専門学校卒業生の声

- ・ 教育・道徳性など様々なことを学ばなければいけなかったが、クラスの一体感が強く、担任の講師とも一丸となって学業に取り組めた（保育士）
- ・ 先生との関わりや周りの勉強に対する意識が強いことが印象的だった（インテリアデザイナー）
- ・ 検定試験に向けた集中的な授業・補講は厳しかったが確実に資格取得できた（事務）
- ・ 好きな勉強なので皆勤賞になり、学校で勉強するよりも家で美術作品を制作するのに時間がかかり、生徒もそれを楽しんでいた。学校から寄り道せずに帰り、家で作業するという真面目な生活だったので、家族も安心させることができた（雑貨関係）

自立した社会人になるための基礎を習得できる



- ・ 専門学校卒業後の就職を見据えて、基本的な生活習慣に関する指導、学習習慣の習得に向けた指導が充実しています。例えば、あいさつや遅刻・欠席時の指導の徹底などを通じて、社会人としての基礎を確実に身に付けることができます。



「専門学校に入って好きなことを勉強するために、学習習慣が身に付いた。
このことが、就職後のスキルアップにも役立っています」

- ・ 専門学校では、社会人としての基礎を身に付けることができます。特に、社会人にとって必要な学び続ける姿勢や学習習慣を専門学校で身に付けたという卒業生の声もあります。

専門学校卒業生の声

- ・ これまでの人生の中で一番勉強した（理学療法士）
- ・ 社会人としての、マナーや振る舞いを厳しく教えてもらった（経理事務）
- ・ プレゼンテーションの授業があり、毎週クラスの前で話す機会があって大変だったが人前で話すことが苦手だったが少し克服できて良かった（製造業）

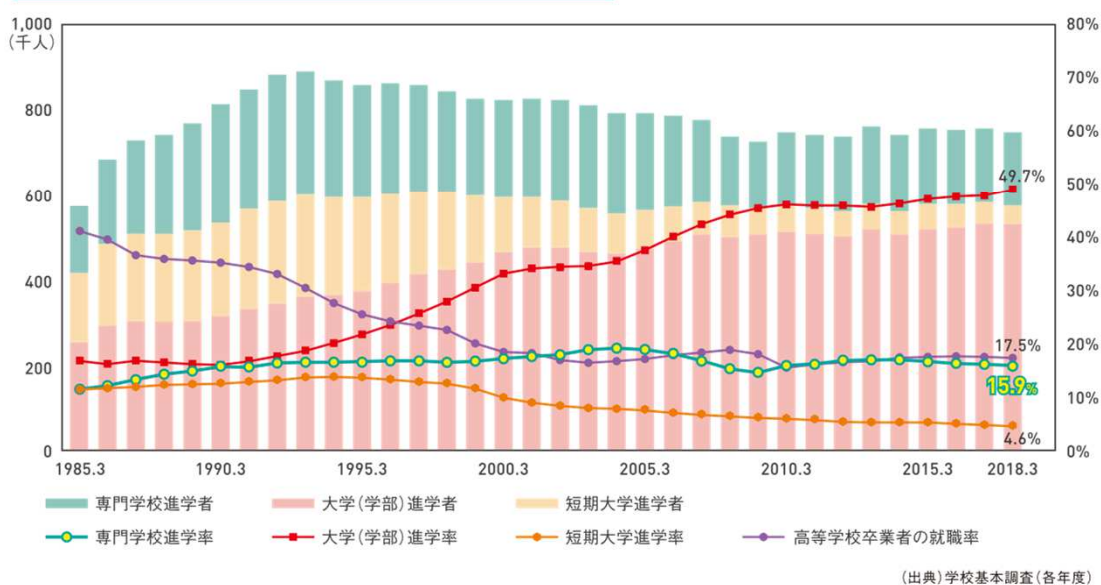
03. データで見る専門学校

データで見る「専門学校の現状」

専門学校への進学率

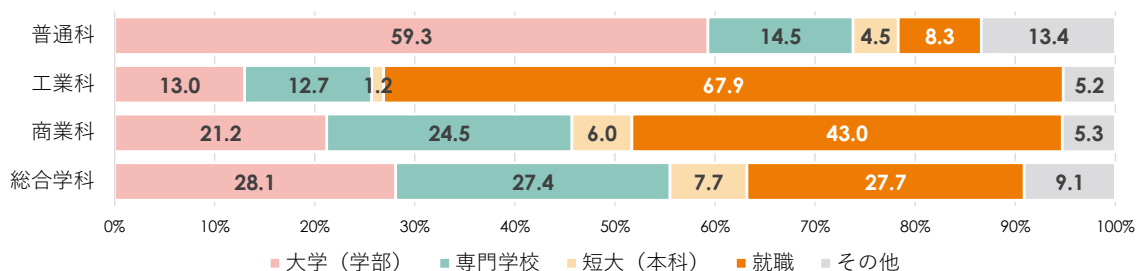
高等学校卒業後の進学先として、専門学校は大学に次ぐ学生数を受け入れています。新規高等学校卒業生の専門学校への進学率は、2010年度以降横ばいに推移しており、2018年度は15.9%でした。長年にわたり、新規高等学校卒業生の15%超が専門学校に進学しています。

進学状況 ① 高等学校卒業生の進学率の推移（現役進学率）



- ✓ 1985年時点では、「高等学校卒業生の就職率」は「大学（学部）進学率」よりも高かったのですが、1997年3月を境に入れ替わり、現在は「大学（学部）進学率」は50%弱となっています。
- ✓ 一方、専門学校進学率は、1985年から概ね横ばいで推移しています。
- ✓ 高校の学科別にみると、高校新卒者が専門学校に進学する割合は、それぞれ、普通科（14.5%）、工業科（12.7%）、商業科（24.5%）、総合学科（27.4%）となります。

高校新卒者の進路状況・主な学科別（2018年度）



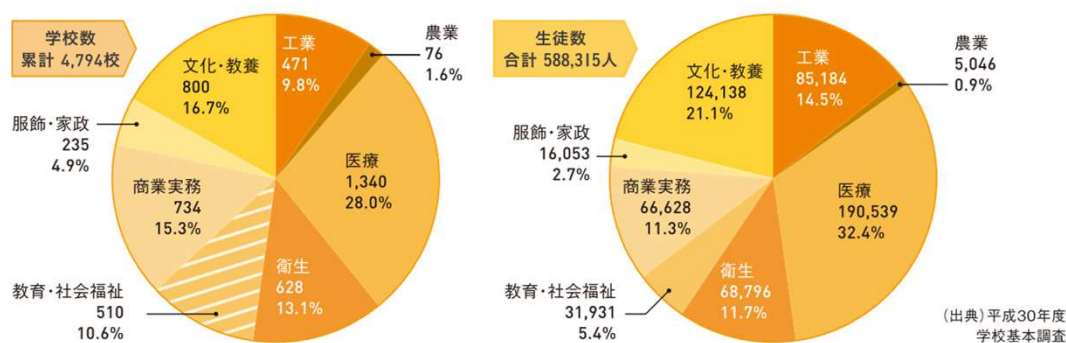
（出典）平成30年度 学校基本調査 より三菱総合研究所 作成

幅広い学習分野



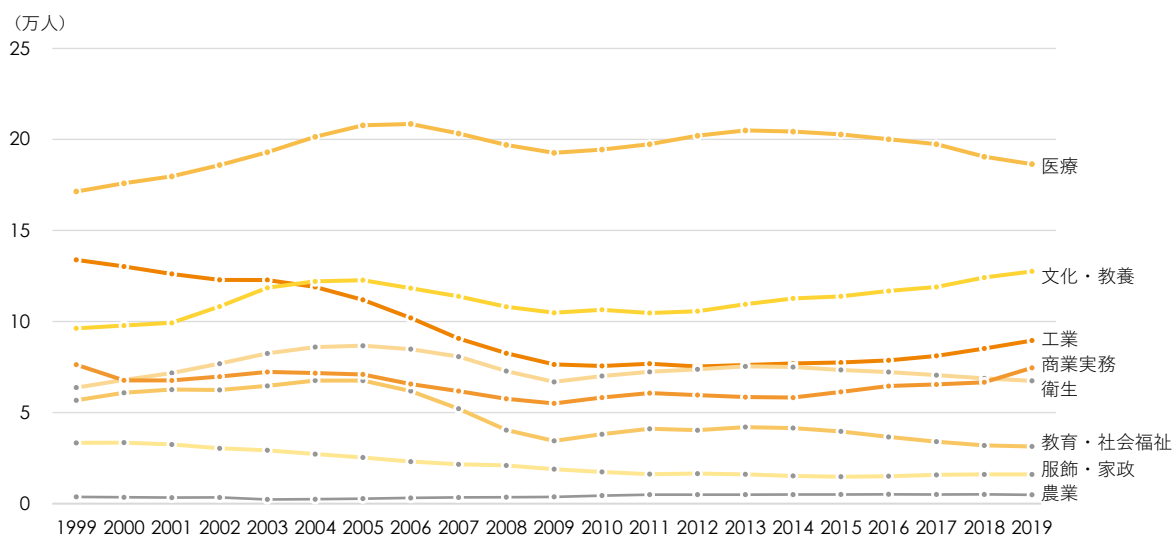
専門学校で学べる内容は、8分野に分かれており、学校数や生徒数がそれぞれ異なります。

専門学校の分野別学校数・生徒数の構成比(2018年度)



- ✓ 分野別にみると、医療系の専門学校が最も多く、28%を占めます。また、医療分野に次いで、文化・教養分野、商業実務分野、衛生分野、工業分野の学校が多いです。
- ✓ 分野別の生徒数の推移を見ると工業分野、商業実務分野、文化・教養分野は、ここ数年間で増加の傾向があります。

専門学校の分野別学生数の推移



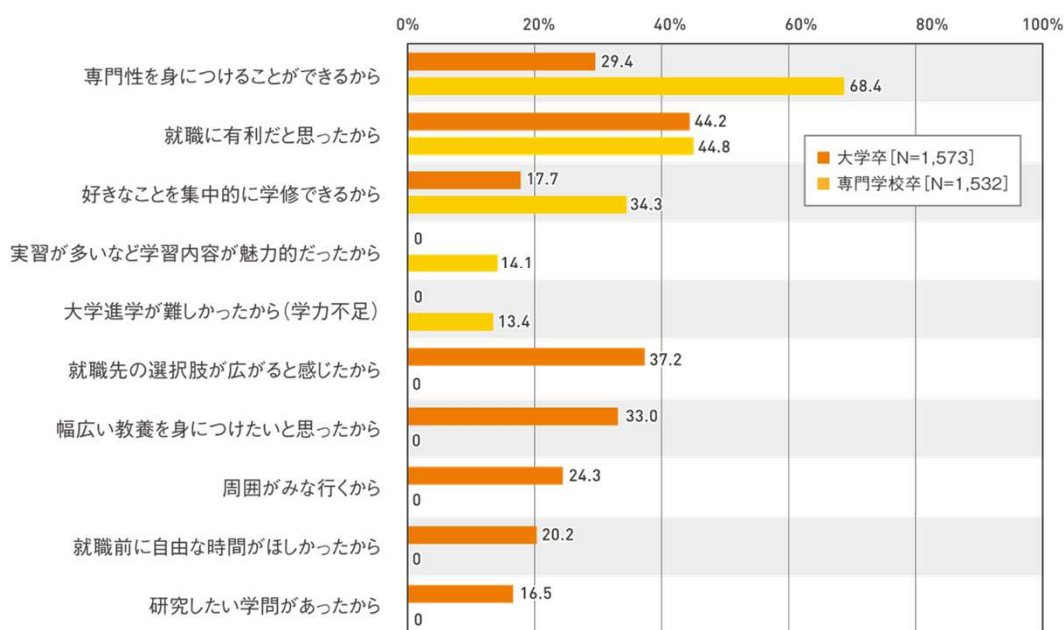
(出典) 学校基本調査(各年度)より三菱総合研究所作成

データで見る「専門学校の魅力」

専門学校を進路として選択する理由



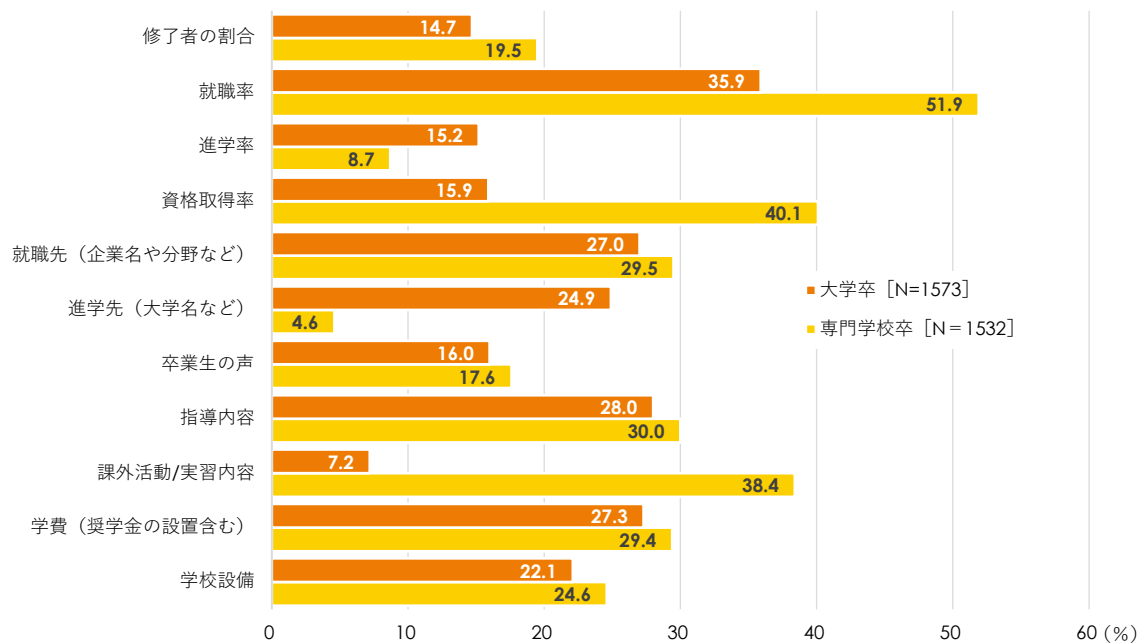
高校時点での進路決定理由を見ると、専門学校進学者は、「専門性を身につけることができるから」「好きなことを集中的に学修できるから」「就職に有利だと思ったから」などの選択割合が大学進学者よりも高くなっています。



(出典) 平成29年度「社会のニーズにこたえる効果的な情報発信の推進」卒業生調査

- ✓ 専門学校を進路として選択する生徒は、「専門性を身につけることができる」「好きなことを集中的に学修できる」という点を魅力と捉えています。
- ✓ 「大学進学が難しかったから」というネガティブな理由での進路選択を行った生徒も一定数いますが、約13%に留まっています。
- ✓ 「就職先の選択肢が広がる」「幅広い教養を身につけたい」等の希望を持つ生徒は、大学を進学先に選択しています。
- ✓ 「就職に有利」であることを進路選択の理由に挙げた生徒の割合は、大学と専門学校でほとんど変わりません。専門学校は産業界とのつながりが強く、生徒向け冊子P.67にもある通り、就職率は大学より高い数値で推移しています。
- ✓ 専門学校卒業者が進学先を選択する際に重視した情報として、「就職率」「資格取得率」「課外活動／実習内容」と回答した割合が高いです。

進学先を選ぶ際に重視した情報



（出典）平成29年度「社会のニーズにこたえる効果的な情報発信の推進」卒業生調査

卒業生から見た専門学校の魅力



専門学校卒業生から見た専門学校の魅力として、「専門性が身につく」「好きなことを集中的に学修できる」「資格が取得できる」が挙げられています。自身の関心に応じて、専門性の高いことを学べることが評価されています。



（出典）平成29年度「社会のニーズにこたえる効果的な情報発信の推進」卒業生調査

- ✓ 専門学校への進学理由と同様に、「専門性が身につく」「好きなことを集中的に学修できる」という点が魅力であると答えた生徒が多数を占めます。特に、「専門性が身につく」ことを魅力として挙げた生徒は4分の3以上を占めます。
- ✓ 「資格が取得できる」ことを魅力として挙げた生徒は42.3%を占めます。多くの専門学校では仕事に活かせる資格を取得可能であり、分野によっては、資格取得に特化した教育も行われています。

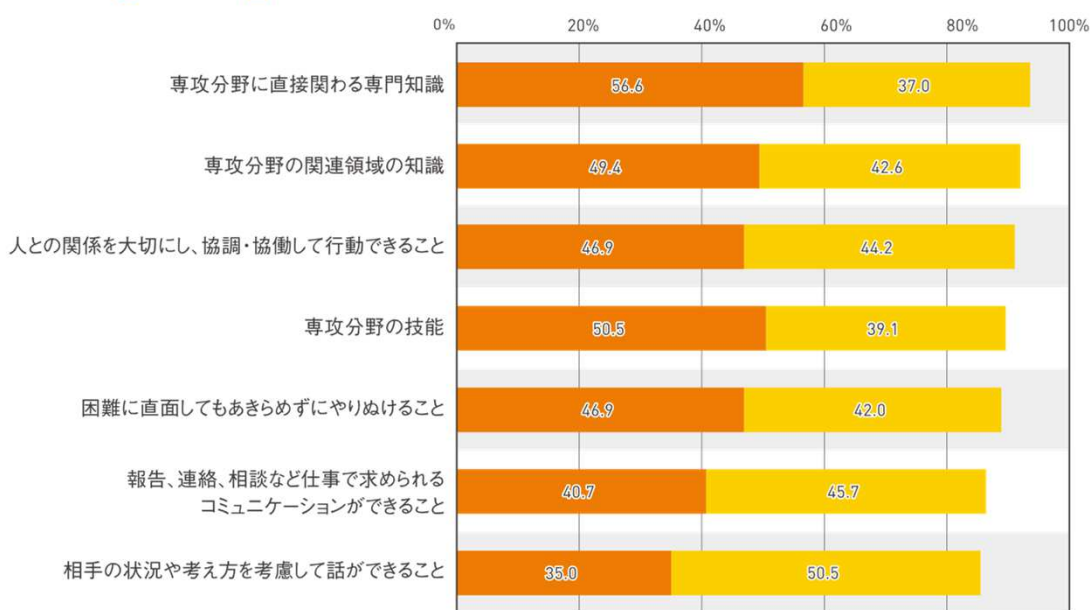
データで見る「専門学校生の成果」

専門学校の教育で成長するスキル・能力



専攻分野に関わる知識・技能を習得できることが専門学校の魅力の一つですが、実際に、専門学校在学中に「専攻分野に直接関わる専門知識」「専攻分野の関連領域の知識」について一定の成長を感じている卒業生は9割を超えています。また、それ以外にも、「人との関係を大切に、協調・協働して行動できること」「困難に直面してもあきらめずにやりぬけること」「仕事で求められるコミュニケーションができること」などの能力も伸ばすことができていることがわかります。

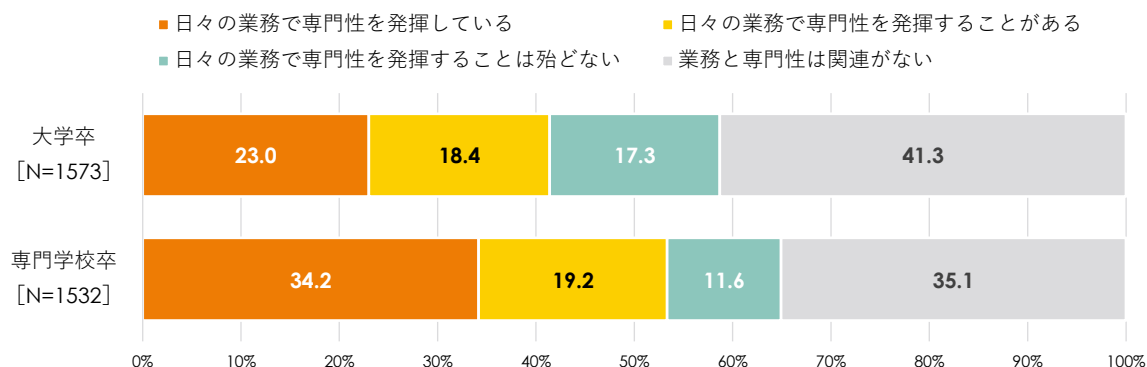
[N=2,020] ■ とても伸びた ■ やや伸びた



(出典) 平成29年度「職業実践専門課程」の実態等に関する調査研究 卒業生調査

- ✓ 専門学校は専門性を身に付けるための教育に注目されることが多いですが、産業界と連携した職業教育を通して、実際に働く上で必要となる、「協調・協働して行動できる」「コミュニケーションができる」「相手の状況や考え方を考慮して話ができる」などの基礎的な力も身に付けることができます。
- ✓ 現在の職業と学んだ内容との関連性については、大学卒業生と比較して、専門学校卒業生のほうが、日々の業務で専門性を発揮している割合が高いです。

専門学校の分野別学生数の推移

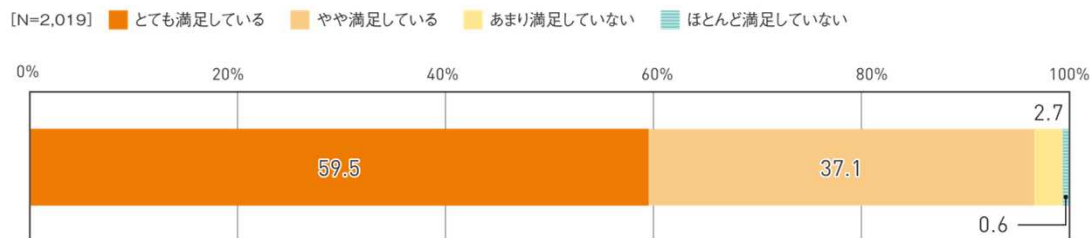


(出典) 平成29年度「社会のニーズにこたえる効果的な情報発信の推進」卒業生調査 より三菱総合研究所作成

専門学校卒業生の専門学校の教育に対する満足度



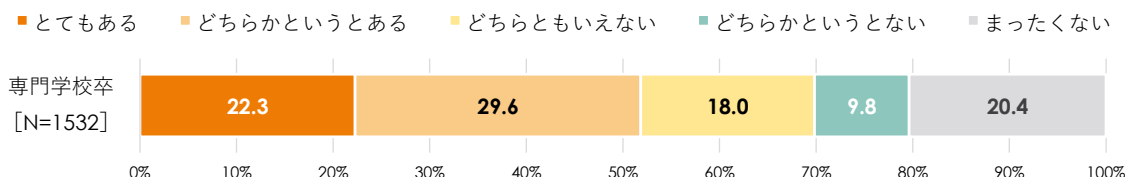
専門学校卒業生の9割以上が、専門学校の教育に対して「とても満足している」または「やや満足している」と回答しており、専門学校を卒業したほとんどの生徒が、専門学校の教育に対して満足しています。



(出典) 平成29年度「職業実践専門課程」の実態等に関する調査研究 卒業生調査

- ✓ 一方で、専門学校卒業生のうち、大学に進学すればよかったと思うことがあると回答した割合は50%強に上ります。
- ✓ 大学に進学すればよかったと思うことがある専門学校卒業生のうち、その理由として「大卒者との処遇に差がある」ことを挙げる卒業生が約45%を占めます。それ以外に、「他の職業を目指したくなったが、専門外の職種への転職がしにくい」「他の職業を目指したくなったが、大学卒業が条件（資格、採用等）になっている」と回答した割合が次いで高くなっています。

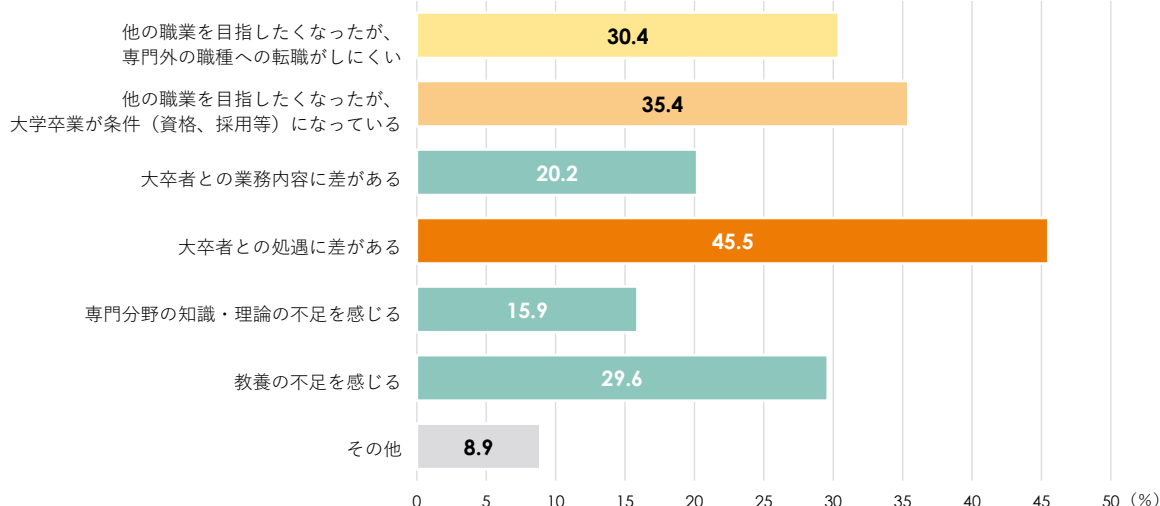
大学に進学すればよかったと思うこと



(出典) 平成29年度「社会のニーズにこたえる効果的な情報発信の推進」卒業生調査 より三菱総合研究所作成

大学に進学すればよかったと思うとき

専門学校卒 [N=794]



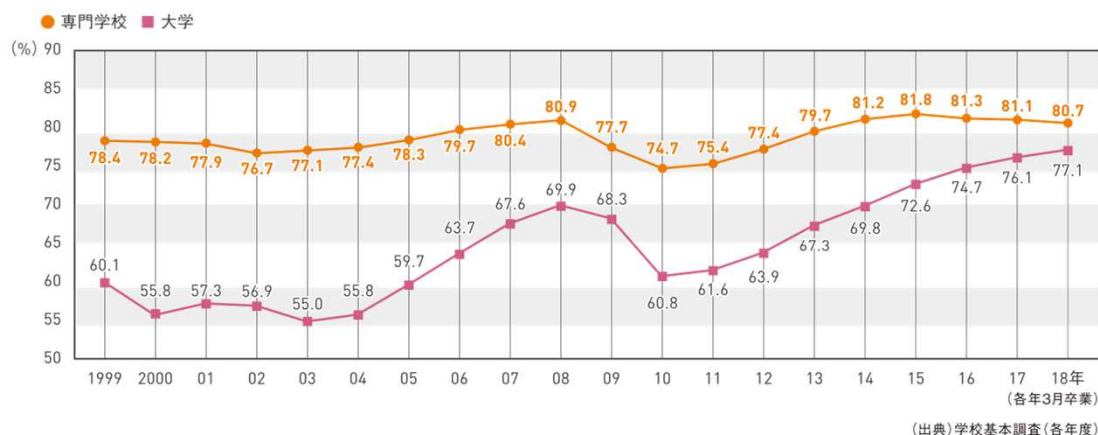
(出典) 平成29年度「社会のニーズにこたえる効果的な情報発信の推進」卒業生調査 より三菱総合研究所作成

卒業生に占める就職者の割合の推移



1982年以降、専門学校卒業生の就職率は常に大学卒業生よりも高く、2018年度の就職率は80.7%でした。また、大学卒業生と比較して社会全体の景気や産業界の動向の影響を受けにくく、専門学校卒業生の就職率は比較的緩やかに推移しています。

高等教育機関卒業生の就職率の推移(全就職者/全卒業生)



- ✓ 就職氷河期（～2005年）やリーマンショック（2010年）により大学卒業生の就職率が影響を受けている時期においても、専門学校卒業生の就職率は安定的に推移しています。

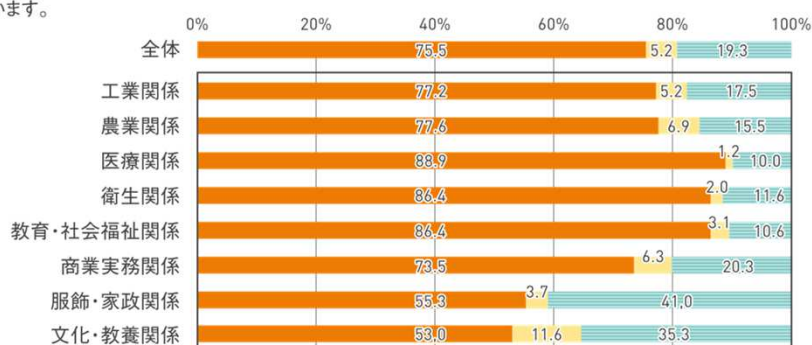
専門学校卒業生の進路希望との合致度



専門学校の卒業生は、専門学校での学びと直結する仕事に就く率が高く、2017年度の卒業生は全体で75.5%が専門分野に関連した仕事に就いています。特に、医療(88.9%)、衛生(86.4%)、教育・社会福祉(86.4%)の3分野で8割を超え、最も低い文化・教養(53.0%)でも半数を超えています。

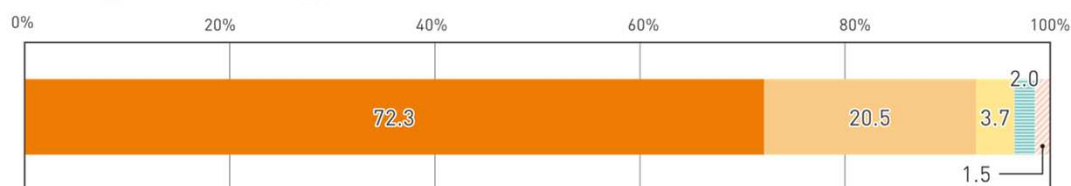
専門学校卒業生の就職率 (分分野/2017年度間)

- 専門分野に関連した仕事に就職
■ それ以外の仕事に就職
■ 就職以外



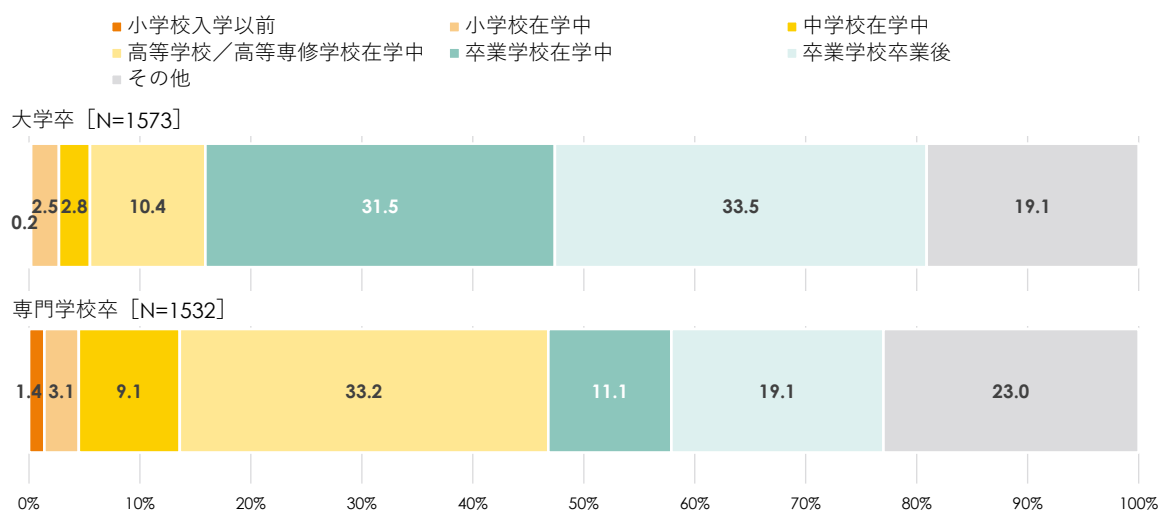
また、専門学校卒業生の7割以上が「希望と合致している」進路に就職しており、高い割合で希望通りの就職先に就職できていることがわかります。

- [N=2,020] ■ 希望と合致している ■ やや希望と合致している ■ あまり希望とは合致していない
■ 希望とは合致していない ■ 明確な進路希望がなかった(ので、わからない)



- ✓ 医療分野、衛生分野、教育・社会福祉分野については、国家資格を取得できる専門学校がほとんどであるため、多くの卒業生は、当該専門学校で得られた資格を活用して就職しています。
- ✓ 現在の職業に就くことを意識した時期は、大学卒業生と比べて、専門学校卒業生のほうが、全体的に早いです。特に、高校在学中もしくはそれ以前であると回答した割合は約50%に上ります。

現在の職業に就くことを意識した時期



(出典) 平成29年度「社会のニーズにこたえる効果的な情報発信の推進」卒業生調査 より三菱総合研究所作成

2

指導例

本章では「未来につながる専門学校」の授業での活用方法の例をお示しします。
各学校の状況に応じ、この指導例の構成・内容等を変更しながら、実際の授業で
活用してみてください。

他者のキャリア理解による進路意識の醸成

—— 東京都立若葉総合高等学校

学習のねらい

- 他者のキャリア理解から得た学びを、自己の就労感・職業観の具体化につなげる。
- 同じ文章を読んだ他者との意見の違いや共通点を認識することで、多様な就労感・職業観があることを知り、自己の価値観を広げることに役立てる。

	活動内容	活用ポイント／留意点
導入 一斉学習 本時の趣旨説明	• 本時のねらいと流れを説明する。 • 4名程度のグループを組み、各グループが「時代を駆ける専門学校卒の先輩たち」のどのトップランナーの記事を読むのか決める。	• 生徒が主体的に取り組めるよう、各グループで興味のある記事を選定する。
展開 個別学習 インタビュー記事の読み取り	• 自身が担当するトップランナーの記事について、①仕事内容、②仕事のやりがい、③仕事を目指すきっかけ、④進路選びのポイント、⑤専門学校での学習内容、⑥就職後のキャリアを読み取り、ワークシートに記入する。	工夫1 ③～⑥の内容は、各トップランナーの進路・キャリアの選択過程であるため、プロセスの時系列的な流れが理解できるようワークシートを設計する。 • 教員は机間巡視を行い、ワークシートに記載できていない生徒を支援する。
協働学習 グループでの意見共有・発表準備	• 個人ワークでワークシートに記入した内容を、グループ内で発表し、意見をとりまとめる。 • グループでとりまとめた意見をクラス全体に分かりやすく発表する方法を検討する。	• グループ内の発表を聞いて、個人ワークで気づかなかった内容があれば、自身のワークシートに書き込むよう呼び掛ける。 • 記事を読んでいない生徒でも発表が理解できるよう、記事の内容を発表冒頭に紹介する等の工夫をするとよい。
協働学習 クラスでの議論	• グループでとりまとめた内容をクラス全体に対して発表する。 • 発表終了後に質疑応答・議論を行う。	• 教員は「記事を読んでいない生徒に対しても分かりやすい説明だったか」等の観点から発表を聞き、不足があれば発表者に質問する。
まとめ 一斉学習 本時の振り返り	• 本時の趣旨を再確認する。 • 今回の授業を通して、自身が高校生活で取り組んでおいた方がよいと感じたことをワークシートに記入する。	工夫2 • トップランナーの考え方・経験を自身に置き換えることで、キャリア設計の必要性を認識することを促す。 - 自身の進路として専門学校が選択肢となりうる場合は「未来につながる専門学校」を一読するよう伝える。 • 専門学校以外の進学先も含めて慎重に検討するよう促す。

※ 授業の学習指導案をもとに作成していますが、実際の授業の流れとは異なります。

学習効果を高める工夫

工夫 1

トップランナーの進路・キャリアの選択過程がわかるワークシート

「時代を駆ける専門学校卒の先輩たち」の内容をまとめる際、ワークシート形式でまとめるべき観点を生徒に示すことは重要です。しかし一方で、“「未来につながる専門学校」に書いていることをまとめるだけ”の学習に陥ってしまうと、進路・キャリアの選択過程が分かりにくくなってしまいます。そのため、ワークシートは、各トップランナーがどの時期にどのような考えをしてきたのか、といった過程を可視化できるような構造にすることが重要です。

また、教員は生徒が発表する際に、このような過程が分かるように発表されているかという観点で発表を聞き、不足があれば発表者に質問をするとより効果的です。

実際に授業に活用したワークシート

『TOP RUNNER 時代を駆ける専門学校卒の先輩たち』から学ぶ

職業名「」 お名前と年齢（）

1. 仕事について調べてみよう

どのような仕事か？

先輩が語る仕事の楽しさや楽しさについて

進路・キャリアの選択過程を可視化することが重要

2. 現在に至るまでのステップ

今の仕事を目標どう思ったきっかけ

進路選びのポイント

➡

専門学校で学んだこと

➡

就職後のキャリア

歳 入社

現在 歳

①専門学校入学前に、職業・進路選びについてどのような検討を行ったのか

②専門学校でどのような学修を行ったのか

③就職後にどのような仕事を行っているのかを時系列で可視化することによりキャリアを理解しやすくなり、他者に共有しやすくなります。

3. 今回の学びから高校生活で取り組んだ方がよいこと、やっておいた方がよいこと話し合ってみよう

4. 『TOP RUNNER 時代を駆ける専門学校卒の先輩たち』を読んで、もっと知りたいと思ったことや新たに生じた疑問について、グループ内で共有してみよう。

☆記入者☆

1 年次 組 番

氏名

専門学校をより理解するための「未来につながる専門学校」活用方法の紹介

「未来につながる専門学校」は、授業をとおして専門学校に興味をもった生徒が、より深く専門学校を理解するためのツールとしても有効です。そのため、各ページにどのようなことが書かれているのかを授業内で簡単に紹介することによって、進路の一選択肢として専門学校に興味をもった生徒が主体的に「未来につながる専門学校」を読むことが期待されます。

また「未来につながる専門学校」を読む生徒に対してワークシートを用意するとホームルーム活動における進路学習の場面での導入が容易になり、多くの生徒に読んでもらうことや、「未来につながる専門学校」に対してさらに興味・関心がさらに高まることが期待できます。

「未来につながる専門学校」の各コンテンツの概要

100人の 未来・キャリア	- 専門学校を卒業した100人が就いた職業やその業務内容、進路選択のアドバイス等も記載しています。 - 専門学校を卒業して就職できる職業を知るのに役立ちます。
専門学校とは	- 専門学校とはどのような学校なのかを大学との比較等から知ることができます。 - 学校選びに重要な「職業実践専門課程」についても知ることができます。
専門学校の カリキュラム	専門学校で具体的にどのような授業を受けることができるのかをいくつかの分野の時間割を例に知ることができます。
時代を駆ける 専門学校卒の先輩たち	専門学校を卒業した先輩たちがどのような思いで今の職業に就いたのかを知ることができます。
専門学校を選んだ 先輩たちの体験談	専門学校を卒業した先輩たちが、学校で受けた授業や在学中に考えていたことを、一問一答形式で知ることができます。
専門学校の 学びの特徴	- 専門学校には、他の学校にはない特徴がたくさんあります。その特徴を専門学校の先生方や卒業生の意見をもとにまとめています。 - 専門学校が自分に合っているか、イメージを持つことができます。
データで見る 専門学校	- 専門学校にまつわる様々なデータをまとめています。 - 就職率や専門学校を卒業した先輩たち等の声をデータで知ることができます。



「インタビュー記事の読み取り」の様子

教員は机間巡視を行いながら、ワークシートを埋められない生徒のフォローを行います。



「クラスでの議論」の様子

生徒は各グループで検討した内容をクラスに向けて発表し、補足すべき点があれば、教員から補うことでクラス全体の理解を深めます。

授業を受けた生徒の声

これまで、私の進路としては大学を考えていましたが、この授業を受けて、専門学校でも私の夢をかなえられることを知り、専門学校への進学も検討するようになりました。

専門学校への進学を考える場合は、専門学校卒業後にその分野で働く自分をイメージできるかどうかが大切だと思いました。

専門学校の授業が想像以上に高度な内容であることを知り、専門学校に対する印象が変わりました。

授業を担当した教員からの「授業実施上の留意点」

- ✓ 本授業が、“ワークシートを埋めるだけ”の授業に陥らないよう、本授業の趣旨を授業冒頭に教員からしっかりと説明することが重要です。場合によっては、ワークシートの中に「本授業のねらい」を記載しておいてもよいかもしれません。
- ✓ クラスでの発表のときに、発表内容を記録するためのワークシートがあると、より集中して発表が聞けると思われます。
- ✓ 今回の授業を受けて、自身が今後取り組んだ方がよいと感じた点や、疑問に思った点をワークシートに書きだすと、今後の学びにつながるため効果的であると考えています。
なお、疑問に思った点を書き出す場合は、その疑問を解決するための調べ学習などの機会を設けなければならないので、その後の授業展開を考えながらワークシートの構成を検討するのがよいと思います。

教員からのメッセージ

当校における「産業社会と人間」では、①自己を理解・発見すること、②高校卒業後の進路や職業生活を中心とした自己の生き方について考えること、③選択科目を理解・研究すること、④学びについて考えること、⑤ライフプランを作成することを学習項目として設定し、これらの項目を常に関連させながら進めることを重視しています。

これらの学習項目のうち、今回ご紹介した授業は②にあたる取組です。②の学習項目では、職業理解による自己の将来のための土台作りを行った後に、将来の職業選択に向けた自己の進路やその後の生き方について、様々な事例に触れながら探求することが重要と考えています。そのため、この授業で職業と進路を結び付けた事例に触れる前に、別途、職業人講話を聴く機会を設定し、職業について深く理解することによる「将来のための土台作り」を図りました。また本授業の後も、それまでの授業内容を踏まえて自己のライフプランを作成するなど、①～⑤の学習項目に関連させた授業作りを行いました。

また、この科目では、生徒が主体的に授業に関わることも重視しています。そのため、掲載した事例（学習指導案）では、教員が授業を進める形態の授業を紹介しましたが、実際に当校で行った際は、生徒に授業を進めてもらうなどして、積極的に授業に関わってもらう工夫をしました。このような工夫は本授業に限ったものではなく、「産業社会と人間」の科目全体を通じた取組として行っています。もちろん初めは不慣れですので教員の補助が必要ですが、徐々に授業を進めることに慣れてきて、教員の最低限のフォローだけで授業を進めることができるようになりました。このように、生徒が主体的に授業に参加することで、互いの学びを支援し共に高まる雰囲気醸成され、互恵的な人間関係が培われることが期待できます。こうした環境において、ワークで得た学びを生徒間で共有することにより、自己の今後の進路を考えることについて意欲が高まると考えています。

「特別活動」

ケースを用いた学校種や進路の比較検討

学習のねらい

- 自己の将来の進路について検討するため、大学と専門学校の違いを理解し、説明することができる。

	活動内容	活用ポイント／留意点
導入 一斉学習 本時の趣旨説明	- 本時のねらいと流れを説明する。 6名程度のグループを組ませる。	本授業は複数回にわたって行ってもよいが、その場合は、各回の授業の趣旨を説明し、一連の授業の目的を説明する。
展開 個別学習 大学・専門学校の違いの確認 (個人単位)	- 大学・専門学校について知っていることやイメージをワークシートに書き出させる。 - その後「未来につながる専門学校」に書いてある大学・専門学校の違いを書き出し、自身のイメージとの違いも書き出させる。	- 当初、各学校種に抱いていたイメージと実際とのギャップを通じて、各学校種について深く理解する。 工夫1 - 短時間で多くの違いを見つけられるよう、別途、ヒントを記載したプリントを用意する。
協働学習 グループ内での意見交換	個人ワークでワークシートに記入した内容を、グループ内で発表する。	グループ内の発表を聞いて、個人ワークで気づかなかった内容があれば、自身のワークシートに書き込むよう呼び掛ける。
一斉学習 大学・専門学校の違いの確認 (クラス単位)	教員から、大学と専門学校の違いを提示する。	大学と専門学校との違いは、本冊子の「専門学校とは」の章の「他の学校種との違い」を参考としながら提示する。
協働学習 事例に基づいた進路アドバイス	- 高校生が自分の将来や進路に関する考えを述べている「事例プリント」を配布する。 「事例プリント」を読み、その高校生の今後の進路についてのアドバイスを検討・議論させる。 - 検討結果をクラス全体に向けて発表するため、発表準備を行う。	工夫2 - 学習内容、費用、職業観等、多面的な観点から検討できる事例を用意する。 - 多様な分野の事例を作成し、クラスで議論する際に、複数のケースを多様な視点から議論できるようにする。 工夫3 - 検討結果を空欄に埋めると発表原稿となるプリントを用意し、発表をスムーズに進められるようにする。
協働学習 クラスでの議論	- 各グループは、クラス全体に向けて、検討結果を発表する。 - 発表終了後に質疑応答を行う。	他グループの発表を聞いて、自グループで気づかなかった内容があれば、自身のワークシートに書き込むよう呼び掛ける。
まとめ 一斉学習 本時の振り返り	本時の趣旨を再確認する。	「事例プリント」の考え方・経験を自身に置き換えることで、キャリア設計の必要性を認識することを促す。

※ 授業の学習指導案をもとに作成していますが、実際の授業の流れとは異なります。なお、実際の授業では2コマの授業時数で実施しました。

学習効果を高める工夫

工夫 1

大学・専門学校の違いを短時間で把握するためのヒントの提示

本授業では、大学・専門学校の違いを深く理解するため、当初、大学や専門学校に抱いていたイメージを各自で書き出した後に、実際の各学校の特徴を把握するという構成としています。各学校の特徴を把握する方法は、コンピューターで調べる方法や、前時以前に行った大学・専門学校の訪問等の体験から抽出する方法等が考えられます。しかしながら、時間が限られている場合は、調べ学習にこのような多くの時間を確保することが困難であるケースも少なくありません。

そこで、本授業では「未来につながる専門学校」から大学と専門学校の違いを抽出して書き出すという方法をとっています。ただし「未来につながる専門学校」には多くの情報を掲載しているため、必ずしも全員が、必要な情報を短時間で抽出できるとは限りません。したがって、どのような情報がどのページに記載されているのかを示すヒントがあると、効率的に調べ学習を行うことができます。

実際に授業に活用したプリント

大学と専門学校の特徴の探し方のヒント	
上級学校（大学・専門学校）進学のメリット・デメリットを考えると、以下の情報を活用してみましょう。	
大学・専門学校の特徴	書いてある箇所
高校から大学・専門学校への進学率はそれぞれどれくらい？	「未来につながる専門学校」p.64
大学・専門学校に通う期間（修業年限）は、それぞれどれくらい？	「未来につながる専門学校」p.25



「グループ内での意見交換」の様子

個人ワークで書き出した大学と専門学校の違いをグループに共有し、各自気づかなかった内容があれば、自身のワークシートに書き込みます。



「事例に基づいた進路アドバイス」の様子

「事例プリント」を読み、その高校生の今後の進路についてのアドバイスを、多面的に検討・議論します。

進路に関する多面的な検討ができる事例の作成

生徒が自分自身の進路を検討するときは、自身が学びたい分野のほかに、職業観、家族の意見、家庭の経済状況など、様々な要素を多面的に検討したうえで、それらを総合して最終的な進路を決定することになります。本授業では、事例を通して実際の進路の検討を体験するため、この多面的な検討を疑似体験できるような事例を作成しています。

事例文（例）

私は、中学生の時に父がもっていたスマートフォンで、よくパズルゲームをさせてもらっていました。ゲームをやっているうちに「自分でもこんなゲームを作ってみたい」と思うようになり、高校生になってからは、休みの日などを使って自分のコンピュータでプログラミングにチャレンジしています。将来は、プログラミングができる仕事に就きたいと思っています。

プログラミングは現場経験が大事だと聞くので、早く就職して現場での経験を積みたいと思っています。ただ、まずは基礎を勉強しなければいけないとも考えているので、高校卒業後は情報系の学校に進学することを考えています。

就職したら、お客さんが抱えている課題を直接聞き取って、システムを作りたいと思っています。お客さんから課題を聞き取るためには、まずはお客さんから信頼されることが重要です。お客さんに信頼されるためには、ITに関する深い知識や、国家資格だけでなく、IT分野に限らない幅広い知識を持っていることが大事だと思っているので、進学する学校では、このようなことを身に付けたいと思っています。

考えられる回答（例）

「休みの日などを使って自分のコンピュータでプログラミングにチャレンジしています」

- ▶ 自主性があるので、自由度のあるカリキュラムで、自分の学びたい科目を自分で設計して学ぶことができる大学で学ぶのがよい。

「プログラミングは現場経験が大事だと聞くので、早く就職して現場での経験を積みたいと思っています」

- ▶ 大学よりも修学期間が短いため、早く社会に出て現場経験を積める専門学校がよい。企業内実習などを通して、学校在籍期間中も現場経験を積むことができる専門学校がよい。

「ITに関する深い知識や、国家資格だけでなく、IT分野に限らない幅広い知識を持っていることが大事だと思っている」

- ▶ 教養など、IT分野に限らない幅広い知識を身に付けることができる大学がよい。国家資格を取るための授業を受けられる専門学校がよい。

また、多面的な検討を可能にするため、下記のような事例を作成しています。

- 資格職を希望しており、異なる学校種に進学しても同じ資格を取得できる分野に関する事例
例）看護師を希望している高校生の事例
- 本人の興味や志向は明確だが、職業選択や学校選択としては幅広い選択肢がある事例
例）デザイン系の職業を希望している高校生の事例
- 本人の興味や志向次第で、異なる職業選択や学校選択が考えられる事例
例）英語を使った職業を希望している高校生の事例

円滑に発表することを目的とした発表原稿の枠組みの準備

クラス全体で複数の事例を取り扱う場合、発表の際は聴衆（発表を聞く生徒たち）に対して、事例に関する前提知識を発表する必要があります。そのため、発表者が必要最低限の情報をクラスに伝えられるよう、穴埋め式の発表原稿の枠組みを用意して、発表後にスムーズに質疑応答などの議論に移行できるようにしています。

穴埋め式の発表原稿の例

私たちはAさんが_____という点に注目して_____といった仕事に向いていると考えました。

Aさんの希望を叶えるには（大学への進学が向いている／専門学校への進学が向いている／大学・専門学校どちらでもよい）と考えました。その理由は_____つあります。

1つ目としてAさんは_____と考えているからです。また、2点目としては_____とも言っているためです。_____。

以上が私たちの考えるAさんの個性を活かした進路選択です。

※実際のプリントの穴埋め部分は、適宜長さを調整して作成しました。

授業を受けた生徒の声

大学に行くにしろ専門学校に行くにしろ、どんなことを学びたいのかははっきりしていないとダメなんだと思いました。

最初は「未来につながる専門学校」で調べるのが面倒だなと思いましたが、色々なことが載っていて役に立ちそうだなと思いました。

授業を担当した教員からの「授業実施上の留意点」

- ✓ 大学と専門学校の違いを理解する前半部分は、後半のグループワークにつながる重要な部分ですので、一定程度の時間を確保した方がよいと思われます。
- ✓ 今回の授業を通じて、教員が専門学校について、もっと勉強する必要性を感じました。教員は、この冊子等を通じて、一層、専門学校に関する理解を深めてから授業に取り組む必要があると思われます。

教員からのメッセージ

私たちが物事を選択し決定する際、知らないことから選択することはできません。当たり前のことですが、選択肢は自分が知っている事柄の中にしかありません。このことは進路選択の際も同じなのですが、生徒が持っている進路選択に関する情報は非常に限られているとともに、何となくのイメージや思い込みによるものが多く、正確性に欠けるのが現状です。また、生徒たちは自らの選択の幅を広げようと、情報収集を試みることもあるのですが、残念なことに、多くの場合、検索サイト等で上位に挙げられたものをチェックする程度で、その信ぴょう性や客観性についてまで吟味する習慣が身についていません。このような現状を踏まえると、本誌のような客観的データに基づいた資料を用いて情報を集め、自らの進路について考えることは非常に有効であると考えます。

また、「生徒版」「時代を駆ける専門学校卒の先輩たち」には生徒が進路選択の際に悩んだり疑問に思う項目が簡潔にまとめられているので、この部分を読むだけでも非常に参考になるのではないかと思います。

3

TIPS

本章では、第2章「指導例」で紹介した使い方以外の授業や進路指導での活用方法をお示しします。

既存の授業等との組み合わせ方を検討するなど、各学校の状況に応じた導入方法に取り組んでみてください。

100人の未来・キャリア

▶ P.6 - 23

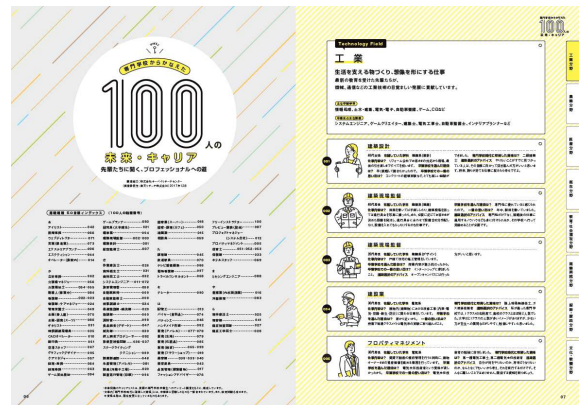
職業や上級学校に関する調べ学習を行う際の導入としての活用

「100人の未来・キャリア」は、職業に関する調べ学習などを行う際、調べる職業を選択するときの補助的な情報として利用することが可能です。

具体的活用例

1. 「100人の未来・キャリア」など※を使って調べる職業を決める。
2. その職業や、その職業に就くための進路について、コンピューターを使って調べてとりまとめる。
3. クラスに向けて調べた結果を発表する。

※「100人の未来・キャリア」だけでなく、webサイトなどと組み合わせて調べると、より幅広い職業から選択することができます。



専門学校のカリキュラム

▶ P.26 - 33

大学と専門学校のカリキュラム比較を通じた、各教育の特徴理解

「専門学校のカリキュラム」に記載している4つの職業について、大学で学ぶ場合と、専門学校で学ぶ場合で、どのような違いがあるのかを把握する活動に役立てることができます。

具体的活用例

1. 「専門学校のカリキュラム」に記載のある4つの職業から、最も興味のある職業1つを選ぶ。
2. 大学進学を経てその職業に就く場合、大学ではどのようなカリキュラム（主に時間割）で学習するのかをコンピューターなどで調べる。
3. 「専門学校のカリキュラム」に記載のある時間割と比較し、大学と専門学校における学びの違いを検討する。



時代を駆ける専門学校卒の先輩たち 専門学校を選んだ先輩たちの体験談

▶ P.34 - 49

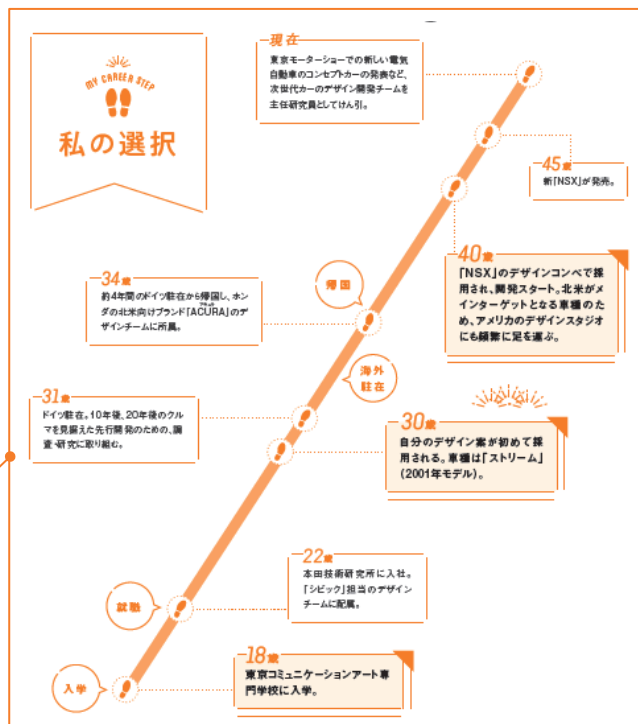
▶ P.50 - 61

“MY CAREER STEP”の作成を通じた進路目的の明確化

自身のライフプランの作成を行う際、「時代を駆ける専門学校卒の先輩たち」「専門学校を選んだ先輩たちの体験談」を参考にすることが可能です。

具体的活用例

1. 「時代を駆ける専門学校卒の先輩たち」「専門学校を選んだ先輩たちの体験談」に記載されている7つのキャリアのうち、興味のあるキャリア2～3事例を読み、先輩たちのキャリアの形成方法を把握する。
2. 「15年後の私」を定義し、そこに至るまでにどのような進路・職業を選択すればよいかを検討し（複数ある場合には複数の選択肢を挙げ）、ライフプランを作成する。
3. 作成したライフプランをクラスに向けて発表する。このとき、他の生徒の発表を聞いて疑問に思う点などがあれば質問する。



※ 進路選択・職業選択の検討を行うことにより、高校在学中の教科・科目の選択に繋げることもできます。なお「【特別活動編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説」では、教科・科目の選択にあたって、下記の点が重要であると記載されています。

教科・科目の選択に当たっては、ガイダンスを充実し、ホームルーム活動の時間のみならず、教科・科目等の時間との関連を十分に図るとともに、教務、各教科及び学年の担当教師などが協力して、教科・科目や類型、コースの選択のためのオリエンテーションや体験学習、あるいは上級生の経験に学ぶ会などを計画的に実施することが大切である。

（出典）文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（特別活動編）」平成30年7月、p.57

▶ P.50 - 61

委託事業実施者 株式会社三菱総合研究所
2020年2月作成

本ガイドは、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、株式会社三菱総合研究所が実施した2019年度「専修学校と地域の連携深化による職業教育魅力発信力強化事業」の成果物です。

※本ガイドはその他の出版物（営利目的のものは除く）に転用可能です。

